

⑦ 岡田三郎助、和田三造の外国出張

昭和十年十二月十八日、岡田三郎助と和田三造は「満洲國ニ於ケル古美術調査ヲ兼ネ美術教育ノ施設一般ヲ調査研究」することを目的に約十八日間の予定で満洲国出張を許可され、同年十二月二十日に出発し、翌十一年一月七日に帰国した。

⑧ 帝国美術院改革の影響

昭和十年の帝国美術院改革（松田改組）は、同院と密接な関係のある本校に大きな影響を及ぼし、和田英作校長の辞任という結果を招いただけでなく、同十九年に断行される本校改革の一因がここに胚胎した。

その概要を記せば、昭和十年二月八日、第六十七議会予算第二分



「波瀾の会員総会 今晚零時半の美校玄関」  
昭和10年 6月15日 紙名不明  
（「諸新聞切抜」より転載）

科会の席上、政友会代議士大口喜六は文相松田源治に対して帝国美術院展覧会（帝展）の情弊、腐敗を指摘して改革を迫った。文相はこれに全く同感の意を表明し、直ちに文部省内で改革案の検討を始めたが、その協議に携わったのは文部省の添田敬一郎政務次官、三辺事務次官、赤間信義専門学務局長および正木直彦帝国美術院長、和田英作本校校長、川合玉堂同教授、矢代幸雄同教授兼美術研究所主事ら極く少数であったことが正木の『十三松堂日記』によって分かる。左記はその部分の抜き書きである。

〔昭和十年〕

三月二日……午前九時半文部大臣官邸に文部政務次官添田 事務

次官三邊 専門学務局長赤間の三氏と會談 帝國美術院の改革に付き懇談あり……

三月四日……午後五時日本俱樂部に行きて文部政務 事務次官兩人赤間専門局長 和田美校長 川合玉堂と會合 帝展改組の事に就きて内議す……

三月七日……午後五時紀尾井町錦水にて牧野伯爵を迎へ和田 川合 赤間氏と共に會合 帝展改革に付き伯爵に成案を説明し着手に付き助力を乞ふ 快諾して相當の補助を惜しまずと挨拶されたり

三月十六日……正午より日本俱樂部に於て赤間専門局長 和田川合兩氏と會食し赤間氏に於て検討したる帝國美術院改革新官制に就いて研究したる成案を文相より閣議に提出して諒解を得たる後改革に着手する事としたり